『保育ナビ』
ダウンロード資料

子どもと
日常の保育の
見方が変わる

事例から学ぶ インクルーシブな保育

今月のお題

1人で抱え込まない体制と安心感

保育者の安心感は、新年度ではとても重要な要因になります。しかし、責任感の強い保育者は、自分で全部やらないといけないという意識が強く、抱え込んでしまうことが多くあります。そのような状況では時に強いストレスと不安が生み出されます。園としてそのような状況が起きないような体制を可能な限り調整しましょう。

見直しの視点

- [ ] **「ねばならぬ」を再確認**

入園当初に「〜しなければならない」ことが多くあると子どもの心の余裕が失われ、結果として落ち着かない状況が長引く可能性があります。本当にしなければならないことを検討したうえで優先順位を定めて常に見直しを心がけましょう。

- [ ] **情報共有の手立て**

園内の情報を共有するために必要な手立てを確認しましょう。情報が届いていないと、不安だけでなく、子どもの安全にも影響する可能性があります。アプリやホワイトボードなどを活用し、できるだけ情報の見える化を心がけましょう。

- [ ] **不安を聞いてくれる人の存在**

焦りや悩みは常にあります。その解消のためには聞いてくれる人の存在がとても重要になります。同僚や主任、副園長や園長は常に保育者の心情を敏感に感じ取ることが必要です。

- [ ] **子どもが安心できる環境構成**

入園当初の子どもは自分の要求を表現することが難しい状況があります。遊びの状況を読み取りながら環境の再構成を心がけてみましょう。物とのつながりを大切にした環境は、子どもの興味・関心を呼び覚まし、安心感につながります。

『保育ナビ』2026年5月号「子どもと日常の保育の見方が変わる
事例から学ぶインクルーシブな保育」（執筆／若月芳浩）